

ナショナルバイオリソースプロジェクト
中核的拠点形成プログラム（オオムギ）平成28年度第二回運営委員会議事録

日時：平成29年1月11日（水） 13：30から16：00
場所：岡山大学資源植物科学研究所 本館 会議室

参加者：

課題管理者	佐藤 和広	岡山大学資源植物科学研究所
委員長	掛田 克行	三重大学生物資源学部
委員	柳沢 貴司	農研機構・次世代作物開発研究センター
	土門 英司	農研機構・遺伝資源センター
	加藤 常夫	栃木県農業試験場
	山崎 由紀子	国立遺伝学研究所
	辻本 壽	鳥取大学乾燥地研究センター
	加藤 鎌司	岡山大学農学部
	村田 稔	岡山大学資源植物科学研究所
	前川 雅彦	岡山大学資源植物科学研究所
	最相 大輔	岡山大学資源植物科学研究所
	久野 裕	岡山大学資源植物科学研究所
	欠席	小松田隆夫委員、武田真委員

報告事項

1. 平成28年度経過報告とデータベースの更新について

課題管理者より平成27年度の補助事業結果（資料1）、ヒアリングスライド（資料2）、今後のバイオリソース整備（資料3、資料4）についての説明があった。

掛田委員長 資料4について、Golden Promiseの突然変異体の開発経費はNBRPから捻出しているのか？

課題管理者 別の予算で開発している。その後、NBRPに寄託する予定。

辻本委員 コムギとのリソースの違いは野生種の取扱量だと思う。spontaneum以外のオオムギの野生系統を扱ってみてはどうか？

課題管理者 spontaneum以外は種同定も難しく栽培管理もしい。ユーザーに手軽に使ってもらうには、spontaneumが提供リソースとして適しており、それ以外はNordgenに依頼を転送しているのが実情である。

加藤常委員 Golden Promiseの矮性型あるいはその他の変異はどういったものを開発するのか？

課題管理者 チャンバー等で育てやすく、早生化したものが良い。出来れば夏場も容易に栽培できるものが開発できればと考えている。矮性にはこだわっていない。

村田委員 細胞質雄性不稔研究などでの需要はないのか？

課題管理者 フィンランドでspontaneum由来の細胞質雄性不稔が研究されていた。最近ではハイブリッドオオムギなどが企業で作られており、利用される可能性はある。

村田委員 夏場でも、電気代などの負担を軽減したオオムギを育成できるチャンバーの開発を企業などと共同開発してはどうか。

課題管理者 オオムギにそれだけの需要があるかどうかが問題である。

課題管理者より事後評価報告（資料5）、成果報告書（資料6）、生物遺伝資源事業（資料7）、追加配分（資料8）の説明があった。

2. データベースの更新について

課題管理者よりヒアリングスライド（資料2）に基づいて説明があった。

3. 第4期申請書について

課題管理者より第4期申請書（資料9）の説明があった。

4. リソースのバックアップについて

課題管理者より、世界種子貯蔵庫および遺伝資源センターへの種子バックアップ預託について（資料10および11）ならびに参考資料の説明があった。

加藤鎌委員 IPKが課金するようになったが、もしも送付された発芽しなかった場合はどのような扱いになるのか？

課題管理者 再送付すると思う。NBRPでは、ある系統で発芽率が低いという報告を受けたことはあるが、全く発芽しないといったクレームはこれまで無い。

協議事項

1. 新規リソースについて

課題管理者より新規リソースについて、SV274系統のDNAサンプルやGolden Promiseの突然変異体などを準備している旨の説明があった。さらに久野委員よりオオムギのゲノム編集や形質転換についての説明があった。

掛田委員長 コアコレクション(SV)のDNA配布について日本のメーリングリスト(mugi-net, rice-net, nazuna)で流しているが、海外向けに宣伝はしないのか？

課題管理者 現段階では、考えていない。国内での様子を見て、今後考える。

掛田委員長 Golden Promise 突然変異系統3000系統の配布について、DNAも合わせて配布するのか？

課題管理者 その予定。スコットランドのグループもGolden Promiseでの突然変異系統の整備を進めており、彼らはシークエンスを読みその情報を提供するとみられる。

加藤鎌委員 スコットランドで開発されているものの変異原はイオンビームか？

課題管理者 変異原が何かは判らない。

辻本委員 ブラキポディウムのリソースは国内にあるのか？

課題管理者 理研の持田先生がよくご存じだと思う。今後、オオムギDBにブラキポディウムのゲノム情報へのリンクを付加する予定である。

辻本委員 spontaneumのリソースの整備も並行して行った方が良い。

課題管理者 すでいくつかの系統はNBRPの配布対象である。

村田委員 コムギやイネなどのオオムギ近縁種のコミュニティーでどのくらいオオムギを利用しているというデータは無いのか？

課題管理者 従前はリソース配布先のほとんどの場合がコムギの研究者であったが、共同研究拠点での共同研究ではイネやシロイヌナズナなどに研究者の範囲が拡大している。

村田委員 コムギコミュニティーが主であれば数が限られてしまう。さらに他のコミュニティーに働きかけをした方が良い。

辻本委員 オオムギ病原菌の研究者と相談して、病理関連のリソースとリンクしてはどうか？生物間相互作用についての話題が増える可能性があるため、そういったリソースがあれば今後の研究に生かせるのでは無いか。

村田委員 植物病理学会だけではなく作物学会などへ出向いて宣伝してはどうか？また、その学会関係者と相談してどうか？

課題管理者 今後考えてみるが、病原菌株などを維持するのは専門性が高い。育種学会ではイネ、コムギ、オオムギで展示を出す予定。

土門委員 赤カビ病原菌などのリソースは生物研のジーンバンクに寄託できる。

土門委員 Global Crop Diversity Trustへリソースのパスポートデータを第4期で提供できないか？

課題管理者 実施する方向で考えている。

山崎委員 イネ、コムギでは農水ジーンバンクとMCPDフォーマットでの情報共有を計画し

ている。オオムギも是非参加していただきたい。

2. 名古屋議定書、ITPGR への対応について

課題管理者より資料 7-2 についての説明があった。さらに土門委員より ITPGR への対応について補足説明があった。

課題管理者 第 4 期では、ITPGR への対応が必要となるだろう。また、その際に必要な手数料に関しては、イネ・コムギのリソース担当者と相談する。

3. 次期のプロジェクトの内容について

課題管理者 第 4 期に採択された場合、運営員のメンバーとして、理研・持田先生、京大・那須田先生（コムギ）、遺伝研・佐藤豊先生（イネ）にも加わってもらう予定。

その他

山崎委員 NBRP リソースの利用論文データベース「RRC」に情報を登録していただく際、できる限り具体的なリソース情報を入れて欲しい。リソースを特定出来れば、RRC からリソースの詳細情報に直接論文情報を自動追加することができる。

以上

(配付資料)

- 資料 1 平成 27 年度補助事業結果説明書
- 資料 2 事後調査ヒアリングスライドおよびコメント
- 資料 3 今後のバイオリソース整備のあり方について
- 資料 4 今後のバイオリソース整備に向けた目標設定等についておよび提出書類
- 資料 5 事後評価報告書抜粋
- 資料 6 成果報告書公開版
- 資料 7 生物遺伝資源事業 2016 年度の活動報告及び今後の活動方針
- 資料 8 追加配分要望書
- 資料 9 第 4 期申請書
- 資料 10 世界種子貯蔵庫預託関連資料
- 資料 11 農研機構遺伝資源センター預託関連資料
- 参考 1 ANRRC ポスター
- 参考 2 分子生物学会展示ポスター
- 参考 3 ムギ類研究会プログラム
- 参考 4 IPK 手数料徴収について

記録：久野委員、文責：佐藤課題管理者